

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年1月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900468		
法人名	大倉商事 有限会社		
事業所名	グループホーム 愛老	ユニット名	あかり
所在地	〒300-0121 茨城県かすみがうら市宍倉3102		
自己評価作成日	平成25年8月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年1月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0873900468-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年9月30日	評価機関 決 裁 日	平成25年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然が豊かなで静かな環境の中に木造平屋建てで、庭も広く門や玄関の施錠もせず、誰でも自由に入出入り出来る様になっており、利用者の方々ものんびり生活している。広い庭には沢山の樹木が植えられ、裏庭には藤棚、畑がありホームに居ながら紅葉を楽しんだり、季節感を堪能しながら安心して生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は栗畑に隣接し、玄関前には広い日本庭園があるため、利用者が居間から景色を眺めたり、敷地内を散歩したりしながら季節の移り変わりが感じられる環境となっている。
広い敷地内に自家菜園を設け、利用者と職員と一緒に沢山の野菜を栽培し、面会の家族等や来訪した地域住民にお裾分けをしている。
利用者は職員と一緒に馴染みの店や美容室に出かけたり、家族等や友人と一緒に買い物や図書館に出かけたりしているほか、近くの郵便局まで一人で行くなど、束縛感のない自由な暮らしをしている。
管理者は月1回行われる地域の清掃活動に参加した機会に、地域の人々に事業所や利用者の現状を伝え、認知症高齢者への理解を図りながら利用者が地域の一員として暮らせるように努めている。
職員は「笑顔あふれる生活空間」との理念に基づき、利用者が笑顔で穏やかに過ごせるよう、一日一笑を目標に支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が「笑顔あふれる生活空間」という理念を理解して共有しながら日々仕事している。	職員は理念の一部である「笑顔あふれる生活空間」と「一日一笑」を共有して実践しているが、それ以外に理念で謳っている「その人らしさ、自分らしくを大切にします」や「地域の一員として安心してゆとりある生活を大切にします」、「生きる喜び、出来る喜びを大切にします」を共有するまでには至っていない。 理念の掲示は玄関だけで、「理念」の表題が明記されていない。	理念であることがわかるよう表題を明記するとともに、各ユニットの壁面や会議室、事務室、来客室など、玄関以外の場所にも理念を掲示し、全職員で共有して実践につなげることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社長の生まれ育った場所にホームがあり近所に住んでいる職員もいるので、自然な交流が出来る。お散歩の際にお話ししたりする事もある。	利用者は職員と一緒に近隣にある他法人のケアハウスで行われる納涼会に参加しているほか、地域の運動会に招待されて玉手箱拾いに参加したり、小学校の運動会の応援に行ったりして地域の人々と交流している。 事業所で開催される地域の和太鼓同好会の子ども達による演奏に近隣住民を招待しているほか、近隣住民から旬の野菜や栗のお裾分けを頂くなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別窓口は設けていないが、面会があった時、電話相談も受ける事がある。運営推進会議などで聞かれる事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだまだホームの実情報告、ホーム生活についての質問等が多く意見交換までには至っていないのが現状。今後は委員の人数を増やしたり、もっとホーム自体が地域に開かれる様に活発な意見交換が出来る会議にして行きたいと思う。	運営推進会議は2ヶ月に1回利用者や家族等の代表、市職員、民生委員、地域住民、協力医療機関の看護師、代表者、管理者で開催し、利用者の生活の様子や運営状況、行事の報告などを行っている。 地域住民から「事業所は東日本大震災で被害が殆どなかったため、自宅が災害にあった場合は避難所として利用させて欲しい」との意見を受けて承諾するなど、出た意見等をサービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事、相談事はその都度電話等で聞いている。運営推進会議でも交流出来ている。	管理者は「要介護更新認定申請」などで市役所を訪問した際には市担当者に挨拶に寄り、情報交換をしている。 管理者は市担当者が運営推進会議などで事業所に来訪した機会や電話で利用者に関する困り事などを相談しており、利用者の車いすの買い替えに関して助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うという事がどういふ事を理解して仕事している。現在は対象となる方は居ないが今後必要性が出て来た時には、職員間できちんと話あっていきたいと思う。	利用契約書に身体拘束と利用者の行動制限を行わないことを明記し、身体拘束をしないケアに努めている。 夜間は防犯のため玄関を施錠しているが、日中は玄関を施錠せず、利用者が自由に敷地内を散歩ができるよう支援しているほか、門には扉を設置せず、一人で外出ができる利用者場合は、敷地外にも職員の付き添い無しで自由に出かけられるよう支援している。 身体拘束排除に向けたマニュアルを作成したり、身体拘束をしないケアの研修を実施するまでには至っていない。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、身体拘束をしないケアに関する研修を実施して職員の理解を深められるよう取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加した時の資料を職員へ報告し、日々のケアの中でも職員同士が気を付ける様になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で対象者は居ないが、今後必要性を感じているので、勉強してみたいと思う。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に本人、家族に十分説明し理解していただいている。料金改正・加算等が生じた場合には、その都度文書で報告している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては、面会時や電話の際に状態報告しながら家族の意向を確認している。利用者についても日頃のコミュニケーションの中で要望を聞くようにしている。外部の窓口を設けたり介護相談員の派遣も受けている。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くよう努めている。 年2回の避難訓練の内、1回は家族等も参加しているが、家族等から「消防署立会いの避難訓練にも参加した方がよい」や「避難訓練に、より多くの近隣住民に参加してもらった方がよい」との意見が出され、次回の消防署立会いの避難訓練には家族等が参加することに決定するなど、出た意見等を運営に反映させている。 玄関に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。 介護相談員を受け入れ、月1回利用者が外部者へ要望などを表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場に入ることもあるので、職員の意見を聞ける機会も多い。ケアについても事業所としては無く、まず現場の意見を聞いて決める様にしている。	管理者は日頃から職員の意見や提案を聞くよう努めている。 職員から勤務体制や利用者がより良く暮らすための環境整備などの意見や要望が出されており、職員から出た意見を受けて利用者が安全に入浴ができるよう浴槽に手摺を付けるなど、運営に反映させているが、全職員による定期的な職員会議を開催するまでには至っていない。	定期的に職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映させることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況（実績・考え方・思い・努力など）を把握する努力をしている。年齢、経験、性格などを考慮して働きやすい職場づくりに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力は把握している。職員同士話し合ったり経験の多い職員から教えてもらったりしながらそれぞれにスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	改めて同業者との交流の場は設けていないが、職員それぞれに付き合いがあり、意見交換等行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることで不安な気持ちで入居する事を前提に、既往歴、生活歴、性格、日課などの情報収集に努め入居後も不安の無い生活を送れる様に支援している。現場としても少しでも不安を取り除けるように一つ一つ本人の納得出来る様にまめに話をする様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望があった時は、家族・本人にホームに来ていただき、家族と本人の要望を確認した上で、ホームで対応可能な事困難な事を明確にすることで家族、本人が納得して利用できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望時に話しを聞いた上でまず、何が必要なかを話し合い、出来るだけ家族・本人のペースで対応している。ホームとして可能な範囲でニーズに応えられるように対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の話をよく聞くようにしている。入居者同士のコミュニケーションも大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係性や家族の意向を踏まえた上で接することで、信用・信頼を得る事が出来ると考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係継続にはホームで可能な限り対応している。面会も自由に行っているため、家族だけでなく昔の仕事仲間や親せきの方も面会に来てくれる事がある。	利用者の家族等や友人、知人が来訪した際には居間や居室など、希望する場所に案内するとともに、ゆっくり話ができるよう茶菓子を出して接待するなど、配慮をしている。 職員付き添いのもと墓参りに出かけたり、馴染みの店や行き付けの美容室を継続して利用ができるよう支援している。 職員が同行できない場所には、利用者の希望を家族等に伝え、家族等や友人などの協力を得ながら、図書館や今迄住んでいた場所などに行けるよう支援しているほか、一人で外出ができる利用者場合は、普段から利用している近くの郵便局に1人でも行けるよう支援するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間の行き来も自由に行えている。自立度の高い方が介助が必要な方に対してこえをかけてくれたり、手伝ってくれたり良い雰囲気がある。逆に少人数がための合う合わないも出てくることもあるので職員は把握してトラブルにならない様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後何人かの方が他施設に移動したが、入居中の生活の様子、状態を書面で報告して安心して生活出来る様に支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人の趣味や意向を把握して大切にしている。可能な範囲で生活の中で取り入れ支援している。	職員は利用者の会話や表情から思いや意向の把握に努め、信頼関係を築きながら利用者の思いにそった支援ができるように努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は家族等から話を聞いたり、利用者の表情やしぐさなどから思いを汲み取ったりして、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に生活歴、既往歴、家族構成、入居するまでの経過などの情報を把握しながらケアしている。出来るだけ以前と変わらない生活が継続出来る様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録、申し送り等で生活面、身体面の変化を把握しながらケアにあたっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人の困り事を把握して、家族の意向を聞きながら職員間で話し合っている。日々細かく状態変化する事柄の時は話し合いが間に合わず、申し送り時に職員全員に伝わる様になっている。	介護計画は利用者や家族等の意向や要望を聞き、職員の意見を取り入れて計画作成担当者が作成し、利用者や家族等に説明して同意を得ている。 6ヶ月毎に介護計画を見直すほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直しているが、全職員によるカンファレンスや毎月モニタリングを実施するまでには至っていない。	全職員によるカンファレンスを開催したり、毎月モニタリングを実施したりして、より多くの職員の意見を介護計画に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別な記録はまめに記入している。認知症に関しては日々変化し思いも変化することがあるのでその時の思いが分かる様に記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本のサービスを理解しその場のニーズに応じてプラスになるよう支援出来る様に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の郵便局に行かれたり、定期的なボランティア（昔遊び・ハーモニカ演奏、あゆみ太鼓）を利用して豊かな生活が送れるように支援している。ホームの行事などで社協の福祉車両を利用する事もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に家族と話し合い、今までのかかりつけ医を継続するか否かを決めている。ホームのかかりつけ医により定期的な往診がされている。状態によりかかりつけ医以外の病院を受診する必要がある時は家族と相談している	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。 職員はかかりつけ医への受診のほか、専門医への受診に付き添い、受診結果は管理者が家族等に報告している。 家族等の希望で利用者の受診に職員と一緒に家族等が同行する場合もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタル測定を行い体調管理には注意している。状態変化があったときにはかかりつけ医に相談し看護師さんが検査など行ってくれている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は必ず付き添い、情報提供している。入院中も定期的に面会し経過を把握して退院に備えて病院との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化、入院等の問題が生じた場合には家族と話し合い、本人、家族の意向を確認した上で協力医と相談してホームで対応出来る事、出来ない事を明確にして出来るだけ、本人、家族の意向に沿えるように対応していきたいと思う。	「看取りについての対応マニュアル」を作成するとともに、「看取りに関する同意書」にマニュアルにそって対応することを明記して書面で同意を得ている。 緊急時の対応についてマニュアルを基に利用者や家族等に説明するとともに、延命処置の意思確認を書面で行っている。 管理者は重度化や終末期の対応について、事業所でできることとできないことが明確になっていないため、見直す必要があると感じている。 重度化や終末期の職員研修を実施するまでには至っていない。	事業所でできることとできないことを明確にし、看取りのマニュアルや看取りに関する指針を見直すとともに、利用者や家族等に説明して同意を得ることが望まれる。 重度化や終末期の対応について、全職員で研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変についてはマニュアルに沿って対応している。状態変化に迅速に対応できるように、日頃から様子観察に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練は行っている。災害時には職員だけでは対応困難と考えている。近隣のかたの協力は運営推進会議等でお願している。今後消防署近隣住民と合同での避難訓練を考えている。	消防署立会いや夜間想定避難訓練を含め、年2回避難訓練を実施している。 歩ける利用者の誘導訓練には近隣住民の参加を得ている。 避難訓練後は明らかになった課題や反省点を話し合い、記録に残している。 災害対策マニュアルと緊急連絡網を作成している。 乾パンや飲料水のほか、魚や果物の缶詰、毛布、懐中電灯などを備蓄するとともに、一覧表を作成して管理しているほか、日用品は常に在庫を多く保管するように心がけている。 米は代表者宅で作っているため、災害時でも臨機応変に対応することができる。 東日本大震災で得た教訓を基に、事業所の敷地内に井戸を設置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の中でもプライバシーの確保は難しい事もあるが居室には必要以上に行かない様にした り、利用者の前での発言には気を付けている。	管理者や職員は利用者に対する呼び方や言葉遣い、声の大きさに配慮したり、分かり易い言葉で話しかけたりして、一人ひとりの尊厳を大切にしながら支援している。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人のペースに合わせてながら無理のない内容で希望や願いをくみ取れる様に、意思表示が出来ない方には表情を読み取り希望に添えるように日頃から注意してケアしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ個々のペースで日常生活を送っていけるよう見守り、支援し、その中で適切な関わりを持てるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の心地よさ落ち着き、明るさをもたらし、全体的な安定した生活にも繋がるよう、個性、希望、意向を把握した上でそれに合った支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい雰囲気の中で食べる喜びを味わえる様に心がけている、無理のない程度に片付けしてもらっている。平日夕食配食サービスを受けている。	月曜日から金曜日までは宅配業者による食材が届き、職員が調理をしている。土曜日と日曜日は、職員が利用者の希望を取り入れた献立を考え、自家菜園で収穫した旬の野菜を活用しながら調理をしている。利用者は能力に応じて箸配りや下膳、食器洗いなどを行っている。利用者の状態に応じて刻み食などの対応をしている。誕生会には利用者の希望する献立や職員の手作りケーキを提供しているほか、利用者と職員が一緒におやつのだら焼きを作ったり、年に1回弁当持参で花見に出かけるなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。職員は利用者の食事中に食事介助や下膳をしたり、食事に係わらない業務をしている。	利用者の食事中は職員も一緒に食卓に着き、落ち着いた楽しい食事になるような配慮と工夫をすることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスもあり、全体的な栄養バランスは保たれている。摂取カロリーや栄養の隔たり、水分不足が起こらないよう意識して調節しながら取り組んでいる。又、個々によつての運動量の違い、体調、体重の増減を把握して介助や配膳の工夫をしている。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今までの週間もあるので無理強いはせず、口腔ケアの重要性、必要性を伝えながら清潔を心がけている。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して状態に合わせて可能な限りトイレで排泄出来る様に支援している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握するとともに、一人ひとりのタイミングに合わせてトイレ誘導をしている。時間を決めたトイレ誘導や食事の前後に誘導するなど、利用者がトイレで排泄ができるよう支援している。職員の適切なトイレ誘導により、リハビリパンツから布パンツ使用に改善した利用者があるなど、排泄の自立に向けた支援を実践している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を習慣化させない様に、適度な運動、水分摂取、食事の工夫をして予防対策としている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望やタイミングで入浴する事が出来たら良いと思うが、順番をめぐるトラブルが生じたりするので公平性を保つ為入浴日を決めている。一人一人のペースを大切にしている。	入浴は週3日を基本としているが、毎日風呂を準備しているため、利用者の希望や状況に応じて毎日でも入浴ができるよう支援している。 利用者が入浴を拒む場合は入浴時間を変えたり、職員を替えたりするほか、声かけを工夫したり、入浴を翌日に変更したりして無理無く入浴ができるよう支援をしている。 柚子湯や菖蒲湯、林檎湯で季節感を取り入れた入浴も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人が必要な休息や睡眠がとれるよう、一日の流れや状況、気温等に配慮して安心して気持ちよく休める様、促し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には毎回ごとに名前、日付を記入し必ず確認しながらの服用を徹底している。本人の状態や経過を記録し変化等があれば医療機関に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態、適応力に沿ってお手伝いをしてもらったり、自身に繋がり張り合いのある生活になる様に支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外出することは難しいが散歩したり外気浴をしたり、買い物に行ったり個別に支援している。又家族と一緒に買い物したり、お墓参り、自宅に外出する方もいる。	利用者は事業所の広い庭を自由に散歩している。 一人で外出ができる利用者の場合は、近くにある郵便局や墓参りに一人で出かけられるよう支援している。 利用者と職員で地域の神社や買い物に出かけているほか、春には車いす使用の利用者も一緒に花見に出かけている。 職員は利用者の外出希望を家族等に伝え、家族等や友人の協力を得ながら図書館や買い物などに出かけられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じてお金の管理が出来る方には任せていたが、失くした、盗られた、貸し借り等問題が生じて来たので現在は家族、ホームで管理している。必要時は申し出ただいで使っている。小銭程度は管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に自由に通信出来る様にしている。家族の意向などで曜日を決めて電話している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、フロアの明るさや、温度等に配慮しながら、季節感を取り入れながらくつろげる様に工夫している。自然と居場所が決まってきたり。	共用空間は広く明るく清潔に保たれている。 居間にはソファが配置され、利用者は大きなガラス戸から自然豊かな景色を眺め、居心地よく過ごしている。 居間の壁面に利用者と職員と一緒に制作した季節の花をテーマにした大きなちぎり絵を飾ったり、居間の隅にピアノを配置したりして家庭的な雰囲気づくりをしている。 居間の隣には床の間付きの18畳程の和室があり、床の間には掛け軸や壺が飾られているほか、大きな座卓が配置され、寛げる空間となっている。 和室は運営推進会議や事業所の行事に利用されているが、洋室や椅子での生活をしている利用者にとって、和室は自宅のような懐かしさが感じられる空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間とソファでくつろぎながら話をしたりトランプをしたり楽しみながらそれぞれが過ごしている。一日の中で廊下を歩き続ける方もいるが止めるのでは無く、危険が無い様に見守っている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただいて、その人らしくゆっくりと落ち着いて過ごせる部屋作りを可能な限り支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して暮らせるよう、物品の定期的にてチェックし危険を排除して不安や混乱を招く事のない環境づくりに気を付けている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム愛老

作成日 平成26年1月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事中職員が別な業務を行うことがあり、落ち着いた食事サービスの提供がされていない。	利用者への楽しい食事の提供	食事の時間の業務の見直し。食事中は一緒に席につき楽しい食事がとれる様に支援。片づけを一緒に行う。	6ヶ月
2	11	定期的な職員会議が開催されていない。	定期的な職員会議を開催し、職員の意見を運営に反映させる。	ユニット会議、全体会議の開催	6ヶ月
3	33	終末期、看取りの対応が明確になっていない	看取りに関する指針を明確にして全職員が共有する。	マニュアルの見直し、作成。家族に説明、同意を得る。 職員研修の実施。	6ヶ月
4	26	全職員によるカンファレンスが開催されていない。	定期的なカンファレンスを開催する事でより良い介護計画を作成する。	定期的なカンファレンスの開催、モニタリングを行う。	6ヶ月
5	6	身体拘束をしないケア実施の為に体制が整っていない。	身体拘束排除について全職員が理解を深める。	身体拘束排除に向けたマニュアルの作成。身体拘束をしないケアについて職員の研修の実施。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。